

# 問題解決的な学習を通して、実践的な態度を育てる家庭科授業の実践

江平佳代 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

## Home economics classes to foster a practical attitude through problem-solving methods

EHIRA Kayo

キーワード：問題解決的な学習、家庭科授業、生活文化

### 1. 研究の背景

#### 1.1. 研究課題の設定理由

子ども自らが「これはどうしたらよいのだろう」「家ではこのようにしているけれどどうしてだろう」などと家庭生活を振り返って考えたり、日常生活で疑問に思ったりしたことを課題とし、それを解決するための方法を考え、試したり、調べたりして解決していく。このような過程が問題解決的な学習であると考え。そして、家庭科の学習だけで終わるのではなく、学んだことからの成果や課題、新たに発見したこと、身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能などを子どもたちが自分の家庭生活と結び付けて、相手や目的に応じて様々な方法を考え、実践し、家族の一員として生活をよりよくしていこうとする姿を家庭科では求めている。しかし、子どもたちが身に付けるべき基礎的・基本的な知識及び技能は、授業の中で理解し、その場で説明したり実践したりして与えられた課題を解決できたとしても、受動的に学んではいるその場だけで終わってしまい、それぞれの家族や家庭生活に応じて生かすことはできないのではないかと考える。また、子どもたちが自分の家庭生活に結び付け、「知りたい」「やってみよう」といったような必要感がなければ子どもたちの主体的な学びは生まれないと考える。

そこで、家庭科の授業における問題解決的な学習を明確にすることで、実践的な態度を育てる家庭科授業の在り方が見えてくると考え、研究を進めることにした。

#### 1.2. 家庭科授業を通して見えてきた課題

授業中、子どもたちに自分たちの生活を振り返り、課題を明確にもたせることができずいたり、家庭生活に結び付けて考えさせることができずいたりするために、教師と子どもとで一問一答のやりとりをする場面が多く、子どもたちが必要感をもって主体的に課題解決しようとする姿が見られない。その結果、教師が教えたことは理解したり、与えられた課題については解決方法を考え、解決することができたりするのだが、それを自分の実践に生かすことができずいたり。例えば、「丈夫に縫うためには返し縫いをするという方法があるということは知っている、自分が製作する際に端まで縫ってはいなかったり返し縫いをしていなかったりして使ったときにこわれてしまう」といったような子どもの姿が見られる。

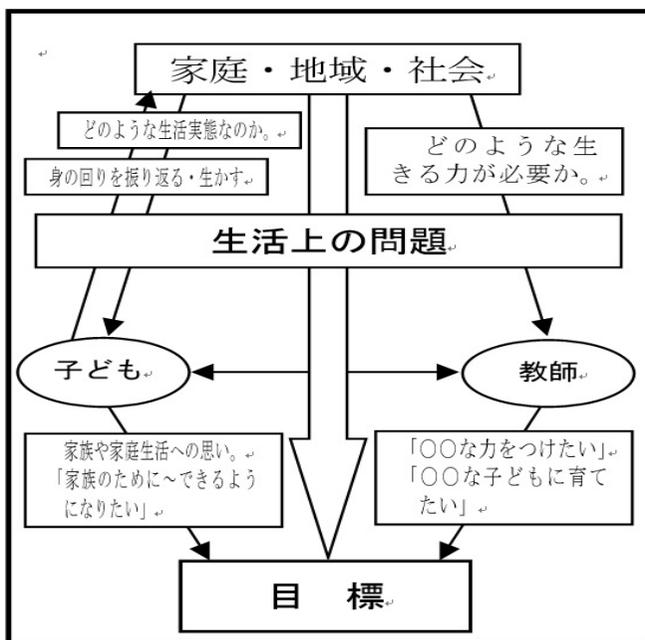
このことから、家庭科の学習では、自分の家族や家庭生活と関係付けて考えさせたり、いろいろな目的や環境、相手に応じるために思考・判断し、表現する必要がある課題を設定したりして、実践的・体験的な活動を通して、家庭生活には、人それぞれの「ひと」や「もの」、「こと」などの要素があり、それらが関連し合って家族との関係

や生活行為があることに気付かせていきたい。そして、課題意識を明確にもち、主体的に解決方法を考え、解決し、それらを自分の家庭生活と関係付け、家族の一員として「ひと」や「もの」、「こと」などに応じて工夫しながら、生活をよりよくするために家庭でも生かすことができる子どもたちを育てていきたい。そのために、目標や指導内容、指導方法の面から「問題解決的な学習を通して、実践的な態度を育てる家庭科授業」について研究を進める必要があると考える。

## 2. 指導方法について

### 2.1. 目標設定の在り方

各題材の目標は、題材の学習を通して、子どもたちに育成したい能力や態度を「家庭生活への関心・意欲・態度」「生活を工夫する力(思考・判断、表現)」「家庭生活の知識・理解、技能」(以下「3つの資質・能力」)の観点から述べる。学習指導要領には2年間の学習を通して指導する身に付けるべき内容が示されており、各題材で身に付けるべき基礎的・基本的な知識及び技能等の系統性を考えたり、4つの内容を相互に関連を図って題材構成をしたりして目標を考える必要がある。図1は目標を考える流れを示したものである(図1)。「3つの資質・能力」や各学年の発達段階はどのようなものなのか、これまでにどのような生活経験があるのか、子どもたちが家庭や地域などどのような環境の中で、どのようなことに興味をもち、どのように関わっているのかなど、子どもたちの実態を考慮する必要がある。また、子どもたちの生活を見て問題だと思ふことに取り組んだり、子どもたちが自分の家庭生活に結び付けながら、学ぶ必要感をもって学習に取り組んだりできるようにするために、家族にインタビューをしたり、家庭生活を振り返って問題を発見したり、課題を解決する際、家庭生活や家族からヒントを得たりするなど、地域や家庭の状況などを配慮しながら具体的にどのような実践的・体験的な活動を通して目標を達成することができるようにするのか明確にする必要がある。



【図1 目標設定までの流れ】

## 2.2 題材分析について

家庭科の学習指導要領の内容は、5・6年別々ではなく2学年まとめて示されている。家庭科が主な学習対象としている家庭生活は、それぞれの子どもたちによって家族構成や家庭環境など生活経験や家庭生活の様式が異なることから、実態に応じて題材を構成していく必要がある。また、一つの内容だけを扱うのではなく、内容A「家庭生活と家族」や内容D「身近な消費生活と環境」などを相互に関連させながら題材構成をしていく。家庭科においては、授業の中で理解したり、解決したりすることが目的ではなく、子どもたちに生活を見直す視点を与え、家庭生活から自分の問題を考えたり、ヒントを得たり、学習したことを家庭生活で生かしたりしていただけるように、つまり、子どもたち一人一人が自分の家庭生活に結び付け、「自分ごと」として学習に取り組むことができるように、子どもたちにストーリー性をもたせることができるような題材構成をしていく必要がある。「ストーリー」とは、子どもたちが課題を解決する中で「できるようになった」自分の成長を実感し、次に生かそうとしたり、家族の一員として家庭生活や家族を思い、実践しようとしたりする意欲をもったりする子どもたちの思いとしてとらえる。ストーリーのスパンとしては小学校で学習する2年間、5年生・6年生それぞれの1年間、一題材、一単位時間などが挙げられる。題材に関しては、2年間を通して学習していく教科であるため、一つの内容の中だけではなく、同じ系統性の中で考えていく必要がある。表1は例として、内容C「快適な衣服と住まい」を中心とした2学年の題材について分析したものを示している(表1)。

内容C「快適な衣服と住まい」の内容は、(1)「衣服の着用と手入れ」、(2)「快適な住まい方」、(3)「生活に役立つ物の製作」の3項目で構成されている。ここでは、衣服の手入れ、製作の学習を通して、身の回りの快適さへの関心を高め、衣服及び製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、衣生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てていく。指導に当たっては、内容A「家庭生活と家族」の内容と内容D「身近な消費生活と環境」の関連を図りながら家庭生活を総合的にとらえられるように配慮する。

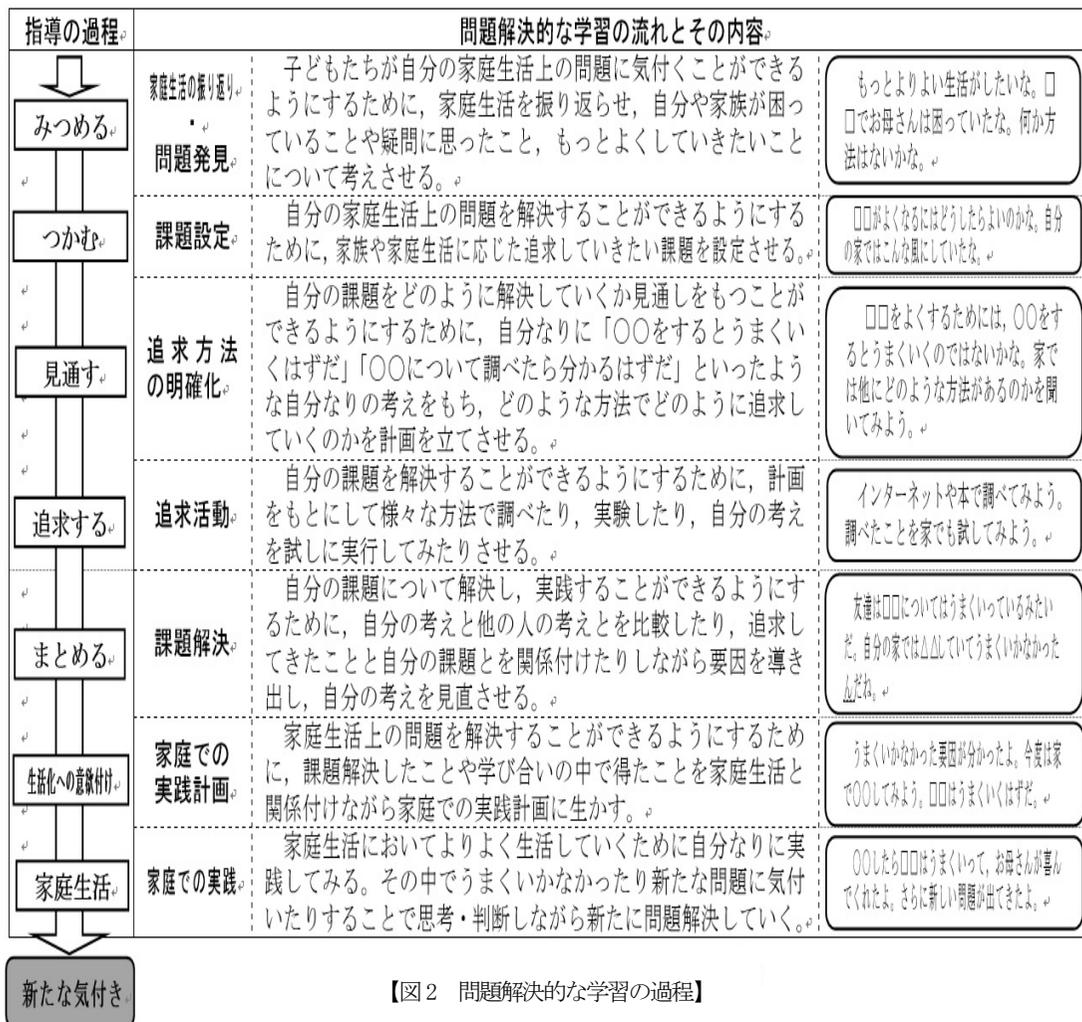
【表1 内容C「快適な衣服と住まい」を中心とした題材の「3つの資質・能力」の系統性】

学年	題材	学びや楽しさ	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を工夫する力(思考・判断・表現)	家庭生活の知識・理解・技能	内容Dとの関連
第5学年	C(3) 小物作りにチャレンジ	フェルトを使い、自分で使える小物を手縫いで作ることができたよ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>布の特徴</li> <li>針と糸と布との関係</li> <li>製作の喜びを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙と布との比較</li> <li>目的に合わせた材料や用具の準備</li> <li>目的に応じた縫い方の選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手縫いの仕方(玉結び、玉どめ、なみ縫い、本返し縫い、半返し縫い、かがり縫い)が分かる。</li> <li>裁縫道具の使い方</li> <li>縫いしろ、ボタン付けの仕方</li> <li>製作計画の立て方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>布を無駄なく使って製作する。</li> </ul>
	C(3) 生活に役立つ物を作ろうI。古着の大変身	ミシンを使って、古着を生活に役立つ物に変身させることができたよ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>古着を再生するよさ</li> <li>手縫いとミシン縫いの違い</li> <li>製作の喜びを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシン縫いと手縫いの比較</li> <li>三つ折り縫いと縫い合わせの比較</li> <li>目的に応じた形や大きさの工夫、縫い方の選択(中表)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>布端の特徴・縫いしろ、出来上がり線</li> <li>ミシン縫い(直線縫い、返し縫い)</li> <li>ミシンの使い方(針、糸の付け方、下糸の巻き方・付け方)</li> <li>糸端・布端の始末</li> <li>製作計画の立て方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみが減らせることや資源の大切さの気づき</li> </ul>
第6学年	C(3) 生活に役立つ物を作ろうII。家族へのおくり物	1枚の布から家族へ生活に役立つ物を製作してプレゼントすることができたよ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>布を使った物の工夫</li> <li>目的に応じた大きさや形を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見直しをもつために製作手順や製作計画を考える</li> <li>目的に応じた形や大きさ、縫いしろ、出来上がり線、ゆるみ、厚み、縫い方の選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>布の種類</li> <li>布端の始末の種類</li> <li>ゆとり、縫いしろの必要性</li> <li>製作計画の立て方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>布を無駄なく使って製作する。</li> </ul>

### 2.3 指導計画の立て方

内容A「家庭生活と家族」や内容D「身近な消費生活と環境」など内容を相互に関連付け、子どもたちの実態に応じながら、実践的・体験的な活動を通して、必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、自分の成長を実感し、家族の一員として家庭生活や家族を思い、実践しようとしたりする意欲をもつことができるようにするために、問題解決的な学習が展開されるような指導計画を立てていく。

図2は、子どもたちが家庭科の学習と家庭生活を関係付けながらすすめる問題解決的な学習の過程をとらえたものである(図2)。まずは、自分なりの解決していききたい課題を設定することができるようにするために、自分の家庭生活を振り返らせ、生活上の問題を考えさせる。そして、最終的に自分がどのようになっていききたいのか、ゴールをイメージさせておく。次に、自分のもつ課題を解決することができるようにするために、どのような方法で追求していけばよいのか計画を立てさせる必要がある。計画をもとに追求していく中で見出した方法や考え、友達を考えなどを生かして、自分自身の課題を解決していけるようにする。そして、最終的には家庭生活の場において目的に応じて学習したことを生かしながらよりよい生活にしていききたいという願いや思いをもつことができるようにしていく。



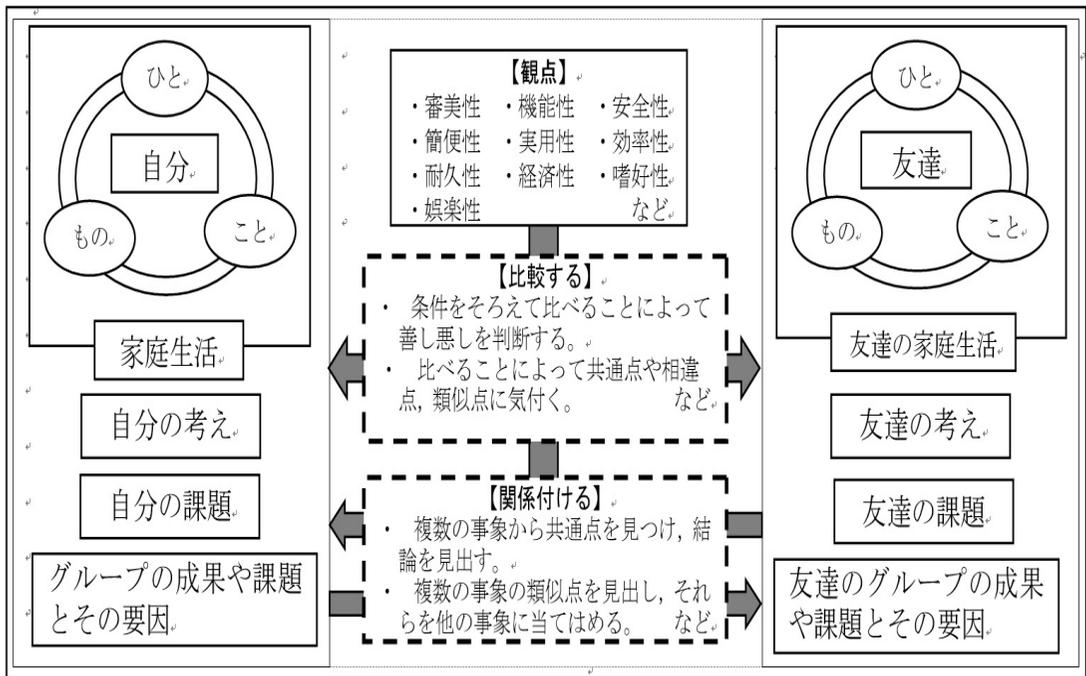
【図2 問題解決的な学習の過程】

## 2.4. 教師の働きかけ方

家庭科では子どもたちが自分の家庭生活と関係付けて、相手や目的に応じて様々な方法を考え、実践し、家族の一員として生活をよりよくしていこうとする姿を目指していることから、家庭生活が学習対象であると言える。その家庭生活は、子ども自身の家庭生活だけでなく、自分以外の家庭生活も学習対象とする。子ども自身の家庭生活を関係付けながら学習させることで、自分の家庭の問題に気付いたり、疑問に思うことが見つかったりして、家庭生活をよりよくしていこうとする意欲につながる。また、自分以外の家庭生活、つまり、友達の家庭生活を知ることによって問題を見つける視点生まれ、新たな問題に気付いたり、同じ問題を抱えている友達の解決方法を聞くことで自分とは異なる別の解決方法を知ったりすることができる。授業は、周りにある「ひと」や「もの」、「こと」がそれぞれ異なる子どもたちが学んでいる。その中で、友達の家庭生活と自分自身の家庭生活とを観点を明確にさせた上で比較したり、関係付けたりしながら学習していく必要がある。

学習課題はどのようにもたせるのか。教師が子どもたちに「学ばせたい」ことと、子どもたちが「学びたい」「知りたい」と思うことが一致したとき、子どもたちは課題に必要感をもち、より主体的に学ぶことができるのではないかと考えられる。子どもたちが課題を「自分ごと」としてとらえ必要感をもちて学習に臨むことができるようにするために、目的を明確にもたせる必要がある。

子どもたちが自分の課題を解決することができるようにするために、追求活動の中で調べたり実験したり自分の考えを試しに実行したりしたことをもとに、比較したり関係付けたりさせる場を設けたり場面を設定するようにする。子どもたちが目的を明確にもち、その観点から比較したり関係付けたりすることで課題を解決し家庭での「よりよい生活」につながると考える。図3は観点を明確にして行う比較や関係付けの観点などについてとらえたものである(図3)。



【図3】 観点を明確にして行う比較・関係付け

### 3. 実践 第5学年題材「生活に役立つ物を作ろうⅠ～古着の大変身～」

これまでの研究を踏まえ、子どもが必要感をもって学ぶことができるようにするための課題意識の持たせ方や、観点をもって比較したり、関係付けたりすることを通して、課題解決をしていく学び合いの導入について授業実践を通して明確にしていく。

#### 3.1. 題材の位置とねらいについて

子どもたちは、布を用いて小物を製作する活動を通して、目的に応じた縫い方を考え、手縫いをする学習をしてきた。また、自分の家庭生活を見つめ、家族の役割や家庭における自分の仕事についての学習を通して、自分は家族を構成する一員であることを実感し、「自分や家族のために物を作りたい」という願いをもっている。

そこで、本題材では、生活に役立つ物を製作するために、古着を用意したり、縫ったりする活動を通して、環境面や先人の知恵から生まれた生活文化などの視点から古着を再利用するよさに気付くとともに、製作手順を吟味したり、縫い方を工夫したりして、古着を用いて生活に役立つ物を目的に応じて製作することができるようになることをねらっている。また、ミシンの適切な取扱い方や直線縫いに必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、家庭生活への関心を高め、自分や家族のために生活に役立つ物を製作したいという実践的な態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、贈る相手や使用目的に応じて、包まれる物の大きさや形、厚さなどを考えて、一枚の布から生活に役立つ物を製作する学習へと発展していく。

#### 3.2. 本題材の目標

古着を用いて生活に役立つ物を製作することに関心をもち、手縫いやミシン縫いのよさを生かしながら目的をもって生活に役立つ物を製作しようとする事ができる。【関心・意欲・態度】

手縫いやミシン縫いのよさを生かして、目的に応じた縫い方を考えたり、製作手順を吟味したりすることができる。【生活を工夫する力】

古着を再利用するよさに気付き、ミシンの安全で適切な取扱いや直線縫いをするために必要な操作などを身に付け、手縫いやミシン縫いで生活に役立つ物を製作することができる。【知識・理解、技能】

#### 3.3. 指導計画

- 1 古着を再利用するよさにはどのようなものがあるか話し合い、学習テーマを設定する。① (図4, 図5)
- 2 学習計画を立て、製作したい物をイメージする。また、ミシンについて知り、ミシン縫いの練習をする。②③④
- 3 グループごとに共通課題に取り組む。⑤⑥
- 4 共通課題の成果と課題、課題の要因について話し合い、グループごとに結果をまとめる。⑦
- 5 グループごとの結果をもとに情報交換を行い、得た情報を生かして製作計画を立てる。⑧
- 6 製作計画をもとに製作する。⑨⑩⑪
- 7 作品発表会を行い、学習してきたことを振り返り、今後どのように生かしていきたいか話し合う。⑫

#### 3.4. 授業の実際

##### ○ 題材の導入時における課題意識の持たせ方 (1/12)

- 1 目標： 古着を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、環境面や消費面などの視点から古着を再利用するよさに気付き、古着の生かし方について自分の家庭生活と結び付けて考えることができる。

## 2 本時の展開にあたって

古着を用いて製作したいという思いをもつことができるようにするために、古着を用いて製作した物と既製品を思いや時間などの観点から比較させ、古着を再利用して製作するよさに気付かせる。また、衣生活における先人の知恵を伝え、布切れから製作した作品や写真を提示したりして、環境面や先人の知恵から生まれた生活文化などの視点から古着を再利用するよさに気付くことができるようにする。さらに、古着を提示しどのような物が製作できるかグループで話し合い、古着から製作するイメージをもつことができるような学習を展開していく。

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
導入・発展	1 身の回りにある布製品について話し合い、自分たちの生活に役立つ物について考える。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 布製品が生活に役立っていることを実感させるために、身の回りにある布製品について話し合わせる。</li> <li>○ 古着を用いて製作したいという思いをもつことができるようにするために、古着で製作した物と既製品を思い等の観点から比較させ、古着を再利用して製作するよさに気付かせる。</li> <li>○ 古着を再利用するよさを環境面の視点から実感することができるようにするために、写真等を提示し古着がごみとして捨てられている実態に気付かせ、環境に与える影響を考えさせる。</li> <li>○ 再利用の方法には作りかえる以外の方法もあることに気付かせるために、他に再利用の方法はないか考えさせる。</li> <li>○ 先人の知恵から生まれた生活文化などから古着を再利用するよさを実感することができるようにするために、先人の知恵を伝え、刺し子やパッチワークなどの作品や写真を示す。</li> </ul>
	2 学習課題を設定し、古着を再利用するよさについて話し合う。 私の家では古着を捨てたり、人にあげたりしているよ。古着を使うとどんなよいことがあるのだろうか。 古着を再利用するよさにはどのようなものがあるのだろうか。 古着を用いて変身した物 ← 既製品 → 時間短縮 → 安い など (再利用の方法) <ul style="list-style-type: none"> <li>作りかえる</li> <li>リメイク</li> <li>人にあげる</li> <li>フリーマーケット</li> <li>リサイクルショップ</li> <li>バザー など</li> </ul> (先人の知恵から生まれた生活文化) <ul style="list-style-type: none"> <li>昔は布が貴重な物</li> <li>刺し子 → 補強・保温</li> <li>パッチワーク → 布を大事にできる</li> </ul> 思い出に残る。長く使える。加工しやすい。 環境面 → ごみが減る。資源を大切にできる。 など	20	
まとめ	3 学習のまとめをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材を通して自分の成長を実感できるようにするために、古着を用いて生活に役立つ物を製作することで、家庭生活をよりよくしていくことにつながっていくことにふれる。</li> <li>○ 家族の一人として古着の使い方を考えられるようにするために、グループに古着を提示し、どのような物が製作できそうか実際に古着に触れたり既製品を見たりしながら話し合わせる。</li> <li>○ 課題意識をもって学習できるようにするために、最終的にどのような物を製作したいかを考えテーマを決めさせる。</li> <li>○ 次時の見通しをもたせるために、振り返りカードを記入させる。</li> </ul>
生活化への意欲付け	4 古着からどのような物を製作することができるか語り合う。	15	
	5 学級のテーマを確認する。		
	6 振り返りカードを記入し、本時の学習を振り返る。		

【図4 1/12の実際】

生活に役立つ物を作る！  
古着の大変身

古着を再利用するよさにはどのようなものがあるのだろうか。

古着を再利用することで思い出を残し、長く使うことができる。またごみを減らし資源を大切にできる。

時間	費用	見た目	ごみの量
手間時間 かかる	かからない (製に あるもの)	アレンジ できる 組み合わせ られる	減る
買っただけ	1000円	きれい (新品)	増える

先人の思い 思い出がある 思いを残したい

先人の知恵を 生かした生活文化

刺し子

長く使う 大切に作る (パッチワーク)

再利用のよさ

【図5 1/12の板書】

○ 課題を見だし、解決するための試しの活動 (8/12)

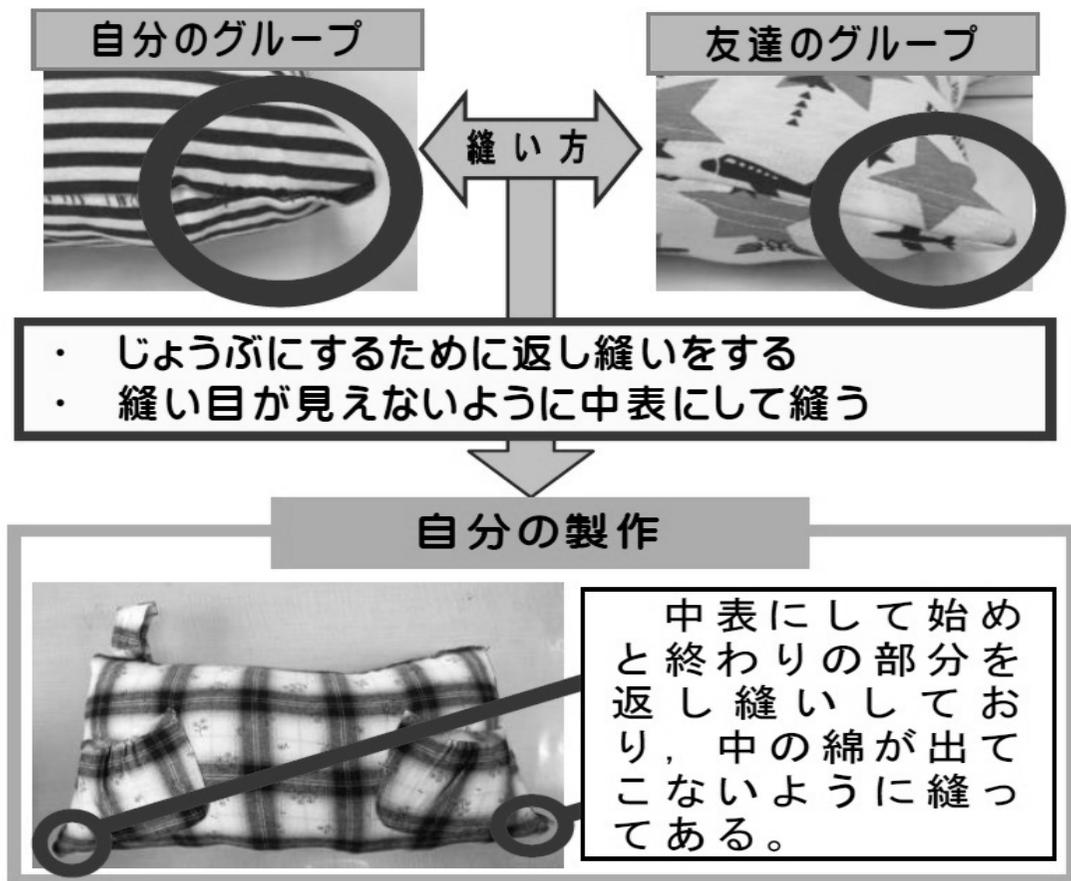
1 目標： 試しの活動（共通課題）から見えてきた成果や課題について進んで話し合い、「見た目のよさ」「じょうぶさ」「使いやすさ」の視点から課題を解決する方法を自分の製作と結び付けて考えることができる。

2 本時の展開にあたって

課題意識を明確にもつことができるようにするために、目的を意識させる。そのために、どのようなクッションにしたいのか3つの視点「見た目のよさ」「じょうぶさ」「使いやすさ」の観点を明確にする。また、自分のグループの課題と他のグループの成果とを関係付けることができるようにするために、他のグループの成果と課題を記したものを配布し、どこのグループに聞きに行くかを話し合い、情報交換し、自分のグループの課題を解決するために生かすことができるようにする。

3 実際

図6は、自分のグループの「縫い目がほつれ、中の綿が出てきた。縫い目が見えて見た目が悪い」という課題と友達のグループの「縫い目がほつれることなく見た目もよい」という成果とを縫い方という観点で比較し、「返し縫い」をすることや「中表にして縫う」よさに気づき、自分の製作に生かすことができたことを示している(図6)。



【図6 情報交換したことを自分の製作に生かす】

### 3.5. 成果と課題

#### 1 成果

- ・ 先人の知恵から生まれた生活文化を伝え、実物を提示したり、既製品と古着を再利用して製作した物とを「時間」や「思い」などの観点で比較させたりしたことで、「ごみにせず古着から生活に役立つ物を作りたい」といった、自分の古着を用いて生活に役立つ物を製作したいという意欲が見られた。
- ・ 「見た目のよさ」「じょうぶさ」「使いやすさ」から見出された「縫い目」や「縫う順番」などの観点を明確にしたことで、「綿が出てこないようにじょうぶにするためにはどうしたらよいのだろうか」「縫い目を見えないようにして見た目をよくするためにはどうしたらよいのだろうか」などと目的をもって情報交換をする姿が見られた。
- ・ 「縫い目が見えないようにするために中表にして縫おう」「クッションをじょうぶにするために返し縫いをしよう」といったように情報交換で得たことを自分の製作に生かそうとする姿が見られた。

#### 2 課題

- ・ 既製品と古着を再利用して製作したものを「時間」や「思い」などの観点で比較した際、「安い買った方がきれいだから既製品の方がよい」という子どももいた。教師は、既製品のよさもあることを確認した上で「お金や物を大事にしたい」「ごみをなるべく減らすようにしよう」といった消費面や環境面の視点をもたせることができるようにする必要がある。
- ・ 情報交換の際、自分たちのグループの課題に直接的に結びつく成果がなかった場合に、情報交換が停滞する場面があった。教師は、情報交換だけで解決策を見出そうとするのではなく、どのような作品にしたいのかを問い、目的を明確にさせ、他の子どもたちと課題と目的を共有させるなど、解決へと導いていくための具体的な働きかけが必要である。

### 4. 家庭科における目指す問題解決的な学習の授業像・家庭科を通して育んでいきたい子ども像

#### 4.1. 家庭科が目指す授業像について

家庭科において子どもたちが主体的に学ぶこと、活動することなどに必要感をもって学習に臨む姿がみたい。そのためには常に子どもたちが学習課題を自分のこととしてとらえ、「こんな風にしたらうまくできるのではないかな」と考えたり、「自分の家だったらこんなことができるな」「お母さんがいつもこのようにしていたのはこんな意味があったのだな」と家族を思い自分の家庭生活と関係付けたりすることが必要であるとする。自分の家庭生活の問題から見出した課題を相手意識や目的を明確にもって追求し課題解決していくことで、家庭での問題解決につながる。追求活動においては、課題を「自分ごと」としてとらえ解決していくために、相手意識や目的を明確にもたせる。そして、自分の考えに深まりをもたせるために観点を明確にした上で比較させたり、関係付けたりする。その学び合いの中で、課題の解決方法を見出すことができたり、新たな視点に気付くことができたりして、相手や目的に応じた工夫や方法を見出すことにつながる。

このように、家庭科において問題解決的な学習を展開することで、子どもたちが家庭生活において新たな問題に出合ったとき、学習で学んだことや考えたことを生かし、家族の一員として家庭生活において相手や目的に応じた方法を考え、実践し生活をよりよくしていこうとする実践的な態度につなげていきたいと考える。

## 4.2 家庭科を通して育んでいきたい子ども像について

小学校の家庭科を通して子どもたちには、家庭生活を営む家族の一員として生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を育みたいと考える。

子どもたちは家庭生活の中でいろいろな「ひと」や「もの」、「こと」と関わりながら生活しており、資源が限られていたり、家族構成や家庭環境が様々であったりする。その中で「このままでは家族が困ってしまうな」「もっと使いやすくないかな」などと、よりよい生活を求めているほしいと思う。学習の中では課題を「自分ごと」としてとらえながら、友達と協力し合ったり、教え合ったりして、学び合いの中で自分の考えを深め、課題解決する姿を育んでいきたい。そして、家庭生活において相手や目的に応じながら、学習で学んだことや新たに知ったことなどを生かして、自分なりに計画を立て、よりよい生活にするための選択や判断をし、自ら実践することができるような子どもを育んでいきたい。

### 付記

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成28年度研究紀要で発表した研究内容等や自身の研究をもとに、研究成果をまとめたものである。

### 参考文献

- 鶴田敦子, 伊藤葉子 (2008) 授業力UP 家庭科の授業, 日本標準, 東京都
- 鹿児島大学教育学部附属小学校 (2002, 2007, 2016) 研究紀要
- 文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領解説編 家庭編, 東洋館出版, 東京都